

とある夫婦に子どもが二人生まれました。

こよなく愛する存在です

子どもどもの幸せを心から願っております

自然を愛し 子ども達と小さなお花のつぼみに 話しかけたり

子どもたちを慈しみ毎日幸せに暮らしております

ある日のこと 子ども達がけんかをはじめました お友達ともけんかをし
草や花を引きちぎり、物という物は投げて兄弟やお友達にケガをさせては
いけないとはらはらしながら 心配 をし見守っております
あまり毎日続くので お母さんは 心配で心配で たまらなくなりました

その夜のこと寝ていると

十二単をお召しになられたお姫様たちが夢枕にたち

「私は天川の星が降り注ぐ神聖な泉の使いです 日が昇り最初に出会ったものに
神聖な泉はどこにありますか」と尋ねその泉にいくがよい」と話され
消えてしまいました

お母さんは夜が明けないうちに外に出て日が昇るのを待つておりますと
丘の小道から装束をお召しになられた男の人が歩いてきます

母は「神聖な泉はどこにありますか」とお尋ねしたところ

丘の上を指で示しました お礼をお伝えし 母は丘の上をはしりました

すると一筋の光の道が示され 光の小道を走っていきますと
お日様や青い空の映る透明な水草のたどよう小川のさきに

美しく 青く輝く 丸い泉に たどり着きました

泉を覗いてみますと 青く輝くその泉は鏡のように

自分の姿を移しましたました顔は確かに自分です。

心配そうな顔の自分を照らしておりました。

体には美しい羽が生えておりました

その横に一人の男が立っております

あなたはどなたでしょうかと お後ろに尋ねしましたところ

「私は貴方に呼ばれた心配です」と男は答えました

母は「私は心配さんと呼んだ覚えはありません」と話をいたしますと

男は「いいえ確かに貴方に呼ばれました」と心配は答えました

泉の中で心配さんと手を繋いでいる姿が映りました

母は心配さんの繋いでいる手を放し

「心配さん さようなら」と伝えました

すると泉に天川からキラキラ光る星が下りてきて

心配さんは 星と一緒に天川に吸い込まれていきました



母は急いで家にかえりますと 子どもたちが穏やかな顔で
食卓のテーブルにニコニコと笑顔で座りながら

こちらを見つめております お母さんは子どもたちに向けより
愛情をこめて抱きしめました こんなにも子どもたちを愛しているのかと
あらためて感じました

子どもを心から「愛し慈しみかわいい」と思うこの感情を

より強くなる感覚を思い出す為に心配さんは来てくださった

心配さんに心からありがとうと伝えました

これからは心配さんと手をつなぐのではなく

慈しみさんと手を繋ぎ 子どもを温かく見守ろうと心に決めました

すると窓の外の青く澄み切った空に 七色の美しい虹がかかり

青い空に白い龍雲がゆったりと流れておりました。

母は子ども達と一緒にいられる今の瞬間が何よりも愛おしく

自然に涙が溢れだしました

母は 心配するのではなく 慈しむ愛と手を繋ぎ

美しい大自然の一部である自分を感じて来たその自分を信頼し
子ども達を見守ろうと決心し 天川から届く美しい虹色の星を

見つめるのです

壮大な宇宙でお星さまはきらきらと輝き

ダイアモンドのように光を放っている存在です

私たちの幸せのすべては自分の感じ方や豊かな受け止め方で

自分自身や周りを、自然に幸せにいくこの感覚を抱きしめて

ネガティブな感情の波動にさようならをし

一つ一つ感情を丁寧な 自分に寄り添い手放していきました

もともとの私たちの魂はキラキラとした神聖な存在なのですから

自然は私に語りかけて下さり いつも励ましと称賛のお言葉を

私に向けてくださいます

これは私が夢でみた 神聖な泉のお話です。

私は小さいころからたくさんの夢を見ます。

思い出したことから絵本にしていこうと思います。

温かい未来を子供達と一緒に創造し オーガニック食を愛し

小さな自然食保育園は三十年を迎えました

心身共に無添加な人生を 共に送りたいと共鳴する方々と

繋がれましたら幸甚に存じます

園長 渡邊 久美子